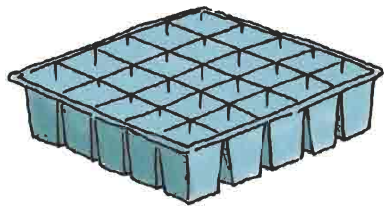


道具をそろえよう

これさえあれば発芽したも同然。そんな選りすぐりの道具たちを紹介します。

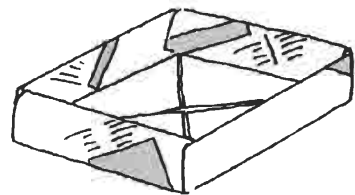
準備編

道具をそろえよう



種をまく容器 (セルトレイ)

マス目状に植え穴が連なったプラスチックトレイで、各マスに種をまき、そのまま花苗を育てます。プラグトレイともいいます。



トレイの受け皿

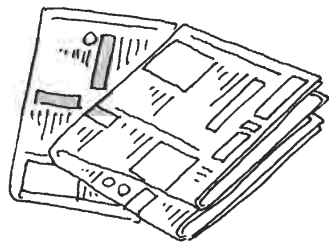
室内で育苗する際に使用する水受けの容器で、セルトレイの下に敷いて使用します。ビニール袋で覆うとセルトレイの底から水を吸わせる「底面吸水」に利用できます。

作り方は11ページで紹介しています。お菓子の空き箱などでも代用できます。



ビニール袋

容器(セルトレイ)の防水用受け皿として使います。また発芽までの間に保温する温室としても利用できます(36穴のトレイを使う場合は45Lの袋が丁度いい大きさです)。



新聞紙

トレイの受け皿をつくるのに使用します。



ピンセット

種まきや、発芽後の間引きを行う時にあれば便利です。



種まき用の土

排水性、通気性、保水性に優れ、病害虫のない清潔な軽い土です。初期生育に必要な肥料が配合されているものもありますので確認しましょう。



移植ゴテ(スコップ)

苗を植えかえる時、地面を掘ったり、土寄せをしたりするのに使用します。



花の種

花の種袋には、種に関する情報が満載ですので、種をまいた後も保管しておいて参考にしましょう。



液体肥料

即効性の液体肥料はセルトレイでの育苗時や、植えつけ後に追肥として使用します。肥料が配合されていない種まき用の土を用いる時は、育苗初期は2,000倍程度に薄め、本葉展開後に、週に一度程度水やり代わりに与えます。



ペットボトル (500ml)

水やり用に使います。お手持ちの水差しや、やかん等でも大丈夫です。

ワンポイントアドバイス!

これらの道具はホームセンター等で手に入れることができます。

準備編

道具をそろえよう

種をまこう

花苗づくりは、栽培環境や育苗技術のレベルなど、諸条件に合わせて様々な育苗方法がとられています。ここでは育苗期間が短く、ビニールポットへの移植作業を省略できるお手軽な育苗方法として、種まき用の容器（セルトレイ）を用いた育苗方法を紹介します。

種をまいて育てる

種まき用の容器・資材を使う



地面に直接まく



苗を購入して植える

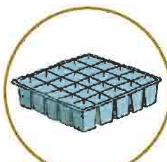


種まき用の容器（セルトレイ）を用いた育苗方法を紹介

必要な道具（資材）



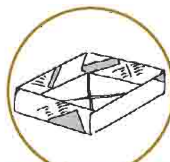
花の種



種をまく容器（セルトレイ）



ビニール袋



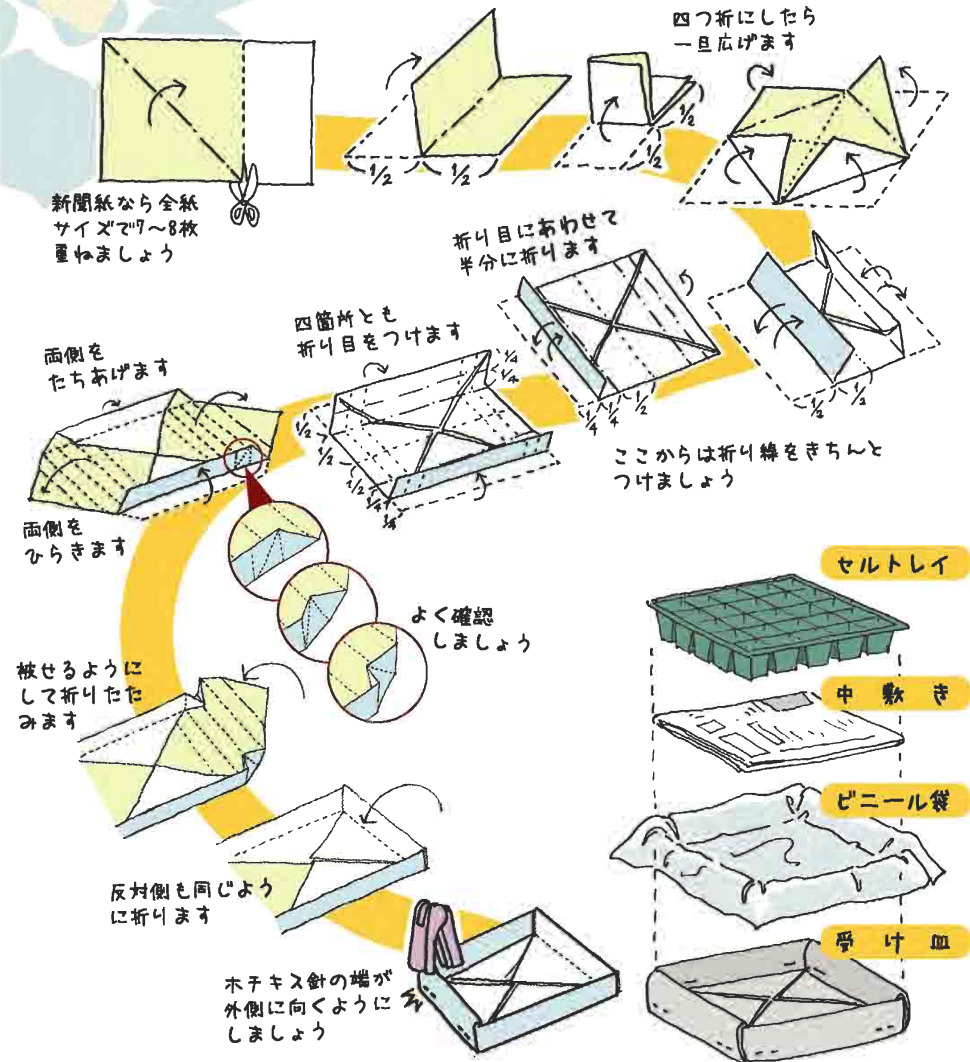
トレイの受け皿



種まき用の土

1 受け皿づくり

苗を育てるための容器セットをつくります。



種まき

発芽・生育

開花

種とり

花が終わった後の管理

種をまこう

2 容器（セルトレイ）に土を入れる

容器のしきりの高さまで土をいれます。

土を無理に押し込む必要はありませんが、トレイの外側が不足になりがちなので注意して下さい。



3 種をまく

種を1マスに1~2粒ずつ土の上に置きます。

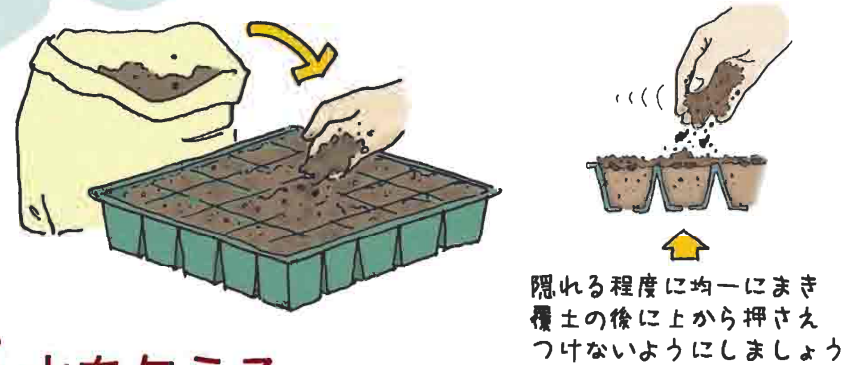
培養土の中に種を押し込まなくても大丈夫です！



4 土をかぶせる (覆土) ^{ふくど}

光が当たっているとよく発芽できない種（嫌光性種子：ニチニチソウ・マツバボタン・ナスチウム・ハナビシソウ・ルピナスなど）は、種が隠れるように土をかぶせます。

逆に、光が当たっていないとよく発芽できない種（好光性種子：ペチュニア・インパチェンス・キンギョソウなど）は土をかぶせません。



5 水を与える

セルトレイと受け皿の隙間からたっぷり（36穴セルトレイの場合は、約2リットル）の水を与えます。

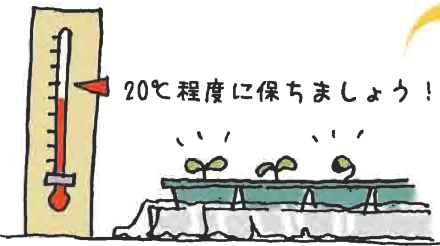
時間が経つと、水が浸透して土の色が変わります。



苗を育てよう

1 発芽までは「水」と「温度」が大切です

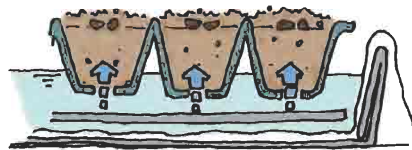
種の種類にもよりますが、20℃程度に保つと3～14日程度で発芽します。また発芽までは十分な水分が必要です。



20℃程度に保ちましょう！

温度が低い場所では、10℃以下にならないようにビニール袋などで覆うなど、保温する工夫をしましょう。また逆に温度が高くなりすぎる玄関フード内等では30℃以上にならないように注意しましょう。

発芽期の乾燥は危険ですので、最初の10日間くらいは水に浸ったままにしておきましょう。



トレイの1/3程度が水につかった状態

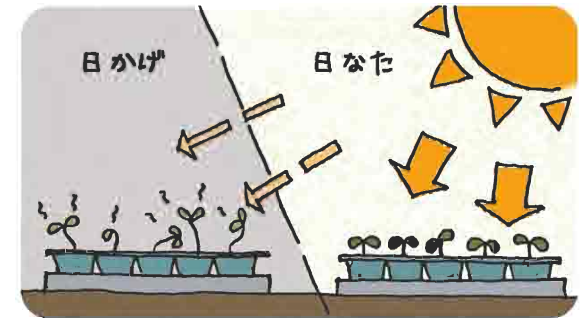
ワンポイントアドバイス！

発芽までの目安は次のとおりです。

マリーゴールド	5日程度
サルビア	10日程度
ペチュニア	10日程度

2 発芽後は「水」と「光」が大切です

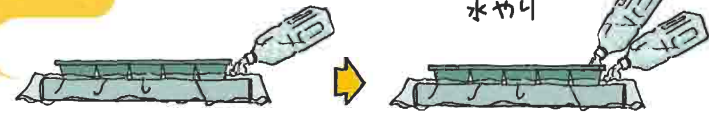
発芽しはじめたら、玄関フードや軒先など、なるべく日当りのいい場所で育苗してください。上からの水やりは苗が倒れたり、生育が遅れたりするので底面から水を吸わせます。水のやりすぎにも注意しましょう。



水やりを忘れないように、週に2回曜日を決めて水を与えてもいいでしょう。

例えば、火曜日に1回水やりをすれば...

次は金曜日にもう1回水やり



生育状況や置き場所によって乾燥具合が異なるので、様子を見ながら量を調整しましょう。

種が流れることもあるので上からの水やりはやめましょう

